第4章
東京電力福島第一原発
事故の状況

第1節　蓄積する課題にどう向き合うか
第2節　福島の住民のその後

2020年6月20日
グリーン連合
伴英幸（原子力資料情報室）

汚染水の海洋放出に反対

- 溜まり続ける汚染水⇒政府は海洋放出方針
  - ４０年廃炉がボトルネック

農林水産団体・市民団体がこれに反対

市民団体、貯蔵継続＋固化処理を提案

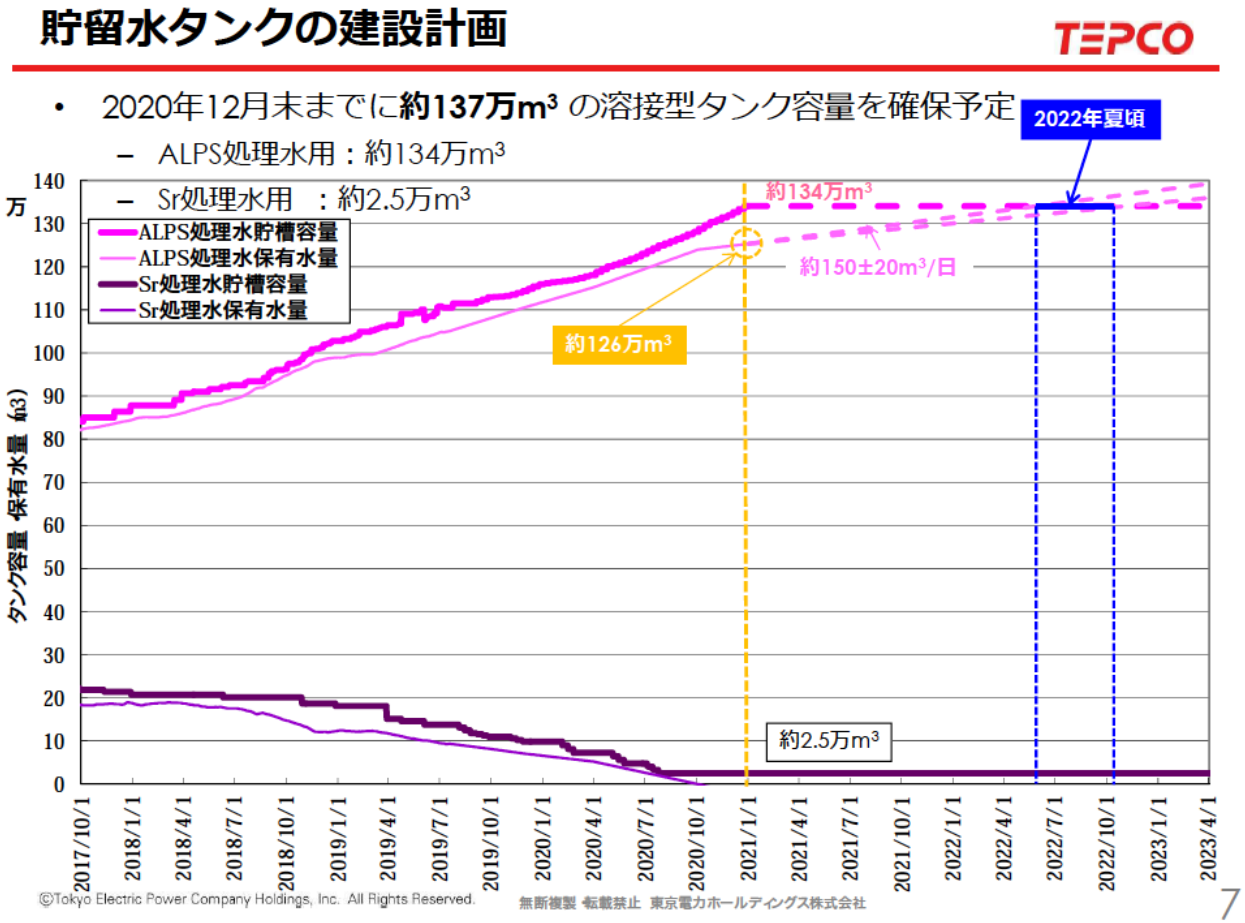
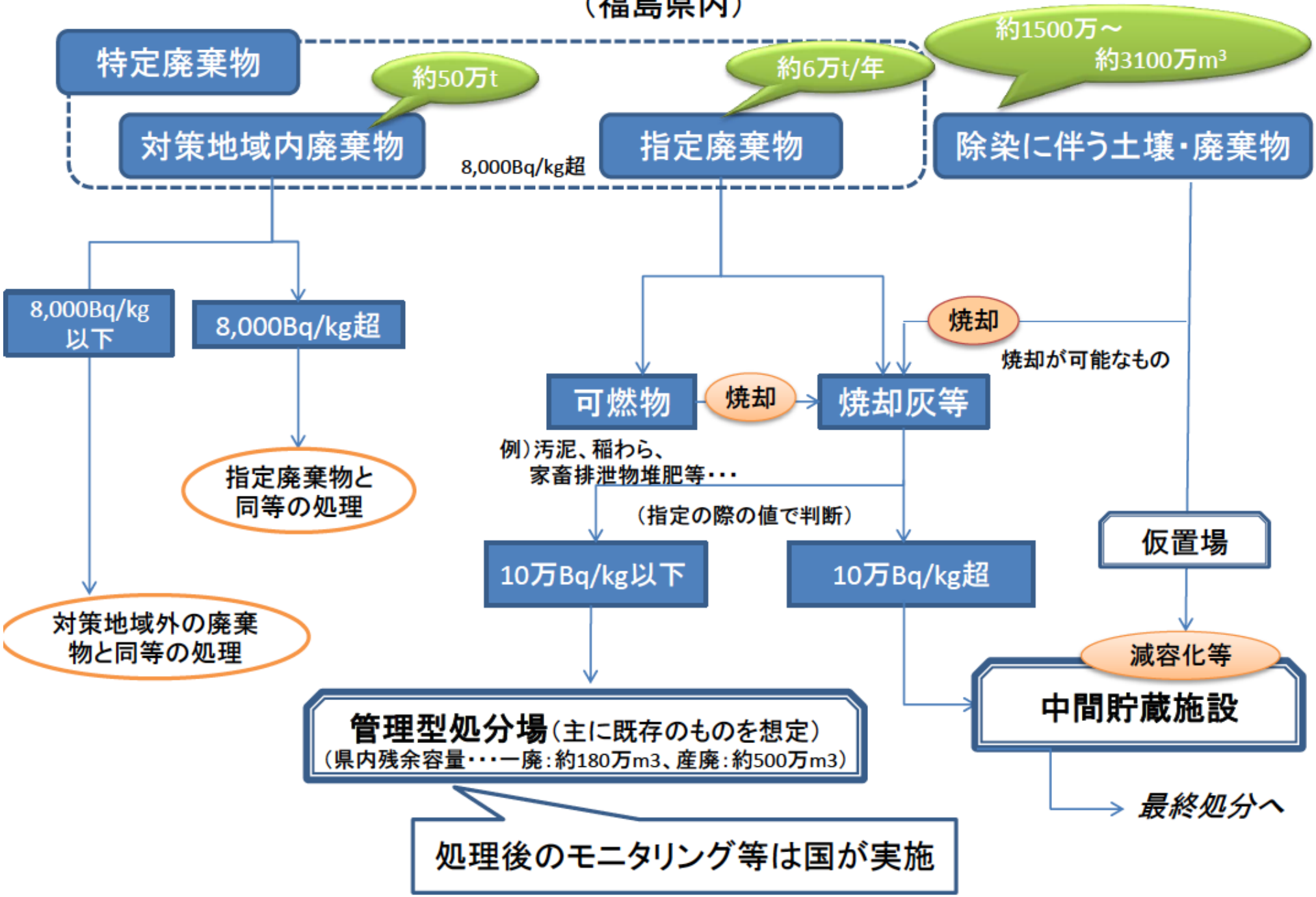


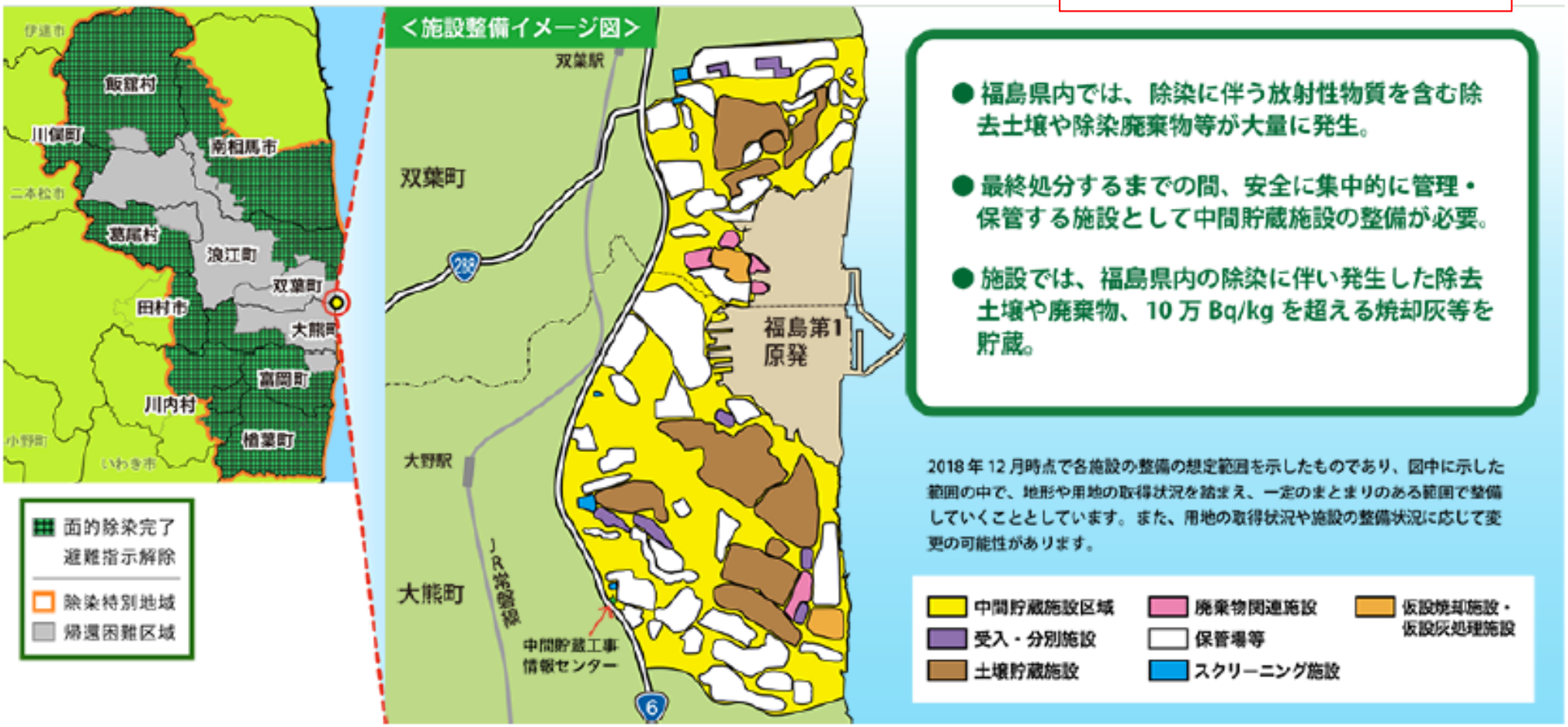
図2

特定廃棄物及び除染に伴う廃棄物の処理フロー（福島県内）



除染廃棄物の中間貯蔵施設（1400万m³）

既搬入量：765万m³



- 30年後に持ち出すことができるか？
- 8000Bq/kg以下を全国の公共事業で使用案
  - 反対で実証事業が進まず

表4-2-1　甲状腺がんの人たちの数（福島県内、事故当時18歳以下）

甲状腺がんの人たちの数（福島県内、事故当時18歳以下）

	対象者数、受診者数	甲状腺がん又は疑い（A）	手術後確定（B）	（A）の男：女 注1）	（A）で基本調査に回答した人のうち外部被ばく1mSv以上の割合 注2）
1巡目検査（2011～2013年）	対象：367,649人 受診者300,473人 （受診率81.7%）	116	101	1：2.0	29% （65人中19人）
2巡目（2014～2015年）	対象：381,256人 受診者270,516人 （受診率71.0%）	71	52	1：1.2	58% （36人中21人）
3巡目（2016～2017）	対象：336,669人 受診者：217,904 （受診率64.7%）	30	24	1：1.5	36% （11人中4人）
4巡目（2018～）	対象：294,183人 受診者：136,942人 （受診率：46.5%）	16	8	1：1.0	82% （11人中9人）
25歳節目検診	対象：44,542人 受診者：4,277人 （受診率：0.6%）	4	1	1：1.0	―
合計		237	186		

出典）2020年2月13日までの福島県発表資料をもとに作成
注1）野口病院、限病院、伊藤病院での若年性甲状腺がんにおける男女比は1：7.8
注2）基本調査全体では、1mSv以上の割合は37.8%（n=465,999）

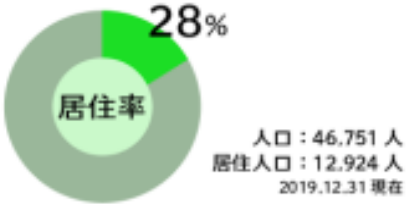
甲状腺がんの多発を認め、被ばくとの因果関係は認めず

- 県民健康調査検討委員会
  - 甲状腺がんの有症率⇒数十倍多い
  - 被ばくとの因果関係は認められない
- スクリーニング効果や過剰診断説に疑問
- 初期被ばく線量は？
  - 13,000cpm⇒100,000cpmに引き上げ
  - 測定されず、記録されず不明

図4-2-1　旧避難指示区域の居住率　各自治体の発表資料をもとに、筆者作成

旧避難指示区域の居住率

旧避難指示区域合計



飯舘村（長泥地区を除く）
人口：5,221人
居住人口：1,392人
居住率：**27**％

川俣町（山木屋地区）
人口：771人　居住人口：352人
居住率：**46**％

葛尾村
人口：1,408人　居住人口：434人
居住率：**31**％

田村市都路東部
人口：271人　居住人口：228人
居住率：**84**％

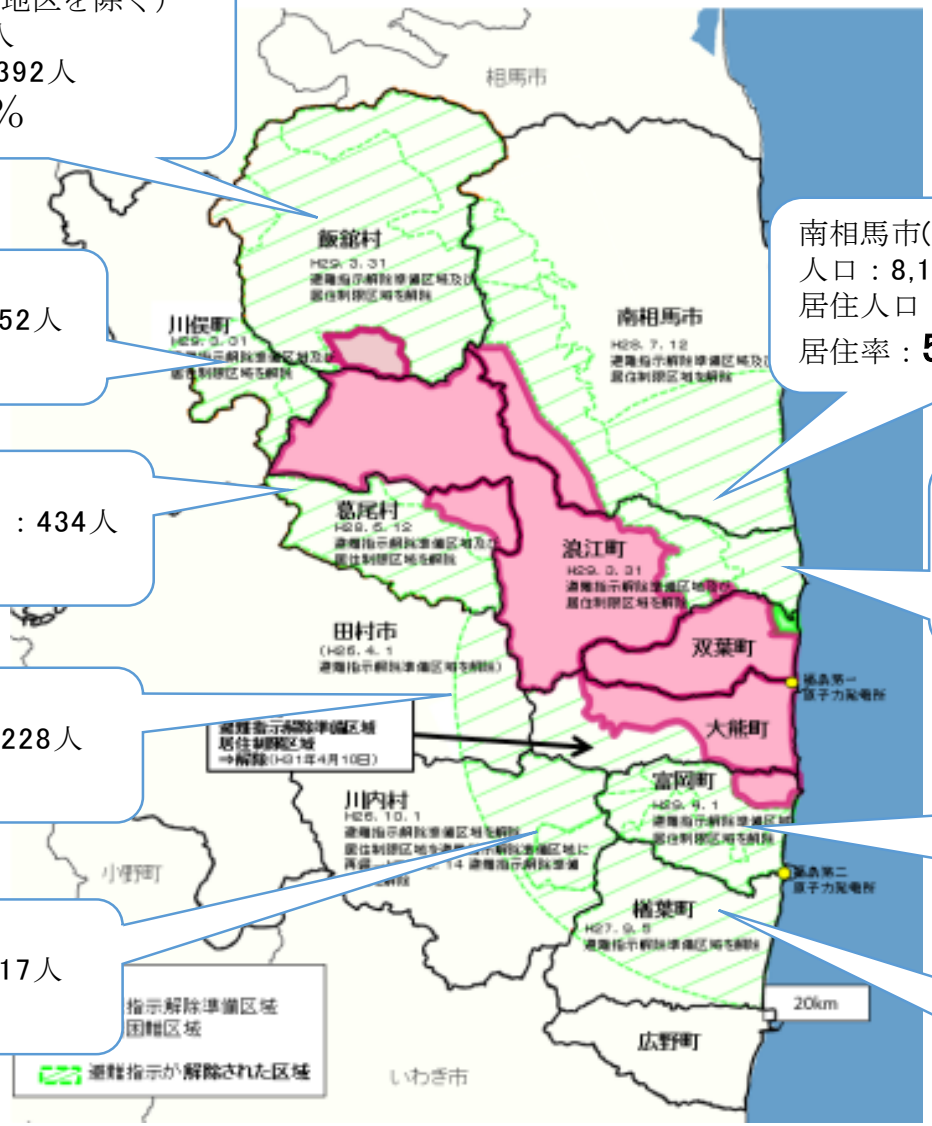
川内村東部
人口：285人　居住人口：117人
居住率：**41**％

南相馬市(小高区、原町区)
人口：8,151人
居住人口：4,192人
居住率：**51%**

浪江町東部
人口：14,535人
居住人口：1,100人
居住率：**8%**

富岡町旧避難指示区域
人口：9,269人
居住人口：1,187人
居住率：**13%**

楢葉町
人口：6,840人
居住人口：3,922人
居住率：**57%**



2019年12月末もしくは1月1日時点。浪江町は2019年11月29日時点
富岡町は2019年12月11日時点